

豚の健康を守る事から始まり、活性水に因る無臭養豚技術

微生物が地球を救う！

養豚環境改善事業

養豚環境を酵素の力で改良 & 改善

微生物活性水「JAPONICA ENZYME」は、活性水に因る無臭養豚技術を、養豚農家の皆様にご提供いたします。



養豚向けエンザイム・システム

『酵素活性化処理法について』

エンザイムに含まれる“数種類のアミノ酸”と“多種類の特異的金属元素”は、処理対象有機物を分解する微生物群の自然発生を促進し、又それら微生物の酵素活性を最大限に引き上げる能力を持っています。

此の能力を用いて、豚の生体機能を活性化、消化吸収を促進し排出糞尿と臭いを減少させ同時に豚の健康を維持する特徴を持っています。



エンザイムシステムの基材

豚へのJAPONICA ENZIEM処方例

《エンザイムを1.7～3%の割合で飼料と入れ替え》

飼料と1.7%（体重50kg以下の場合）3%（体重50kg以上の場合）の割合で入れ替えたエンザイム基材の配合された飼料を豚に与えます。

効 果 : 実施結果の計測資料に基づく

糞尿の量が : 10～15%減量

豚の給飼量が : 約2.8kg 飼料農場要求率（体重1kg増に対する消費飼料）

糞尿の臭い : 臭い激減（整腸と飼料の消化吸収を増加させた結果）

**豚の健康維持と糞の減臭を図る
酵素ならではの成果です！**

続き) 豚糞尿へのENZIEM処方

《酵素活性化処理法による糞尿処理》

“エンザイムリンネ”を用いた“酵素活性化処理法”の新しい排水処理技術を用いて処理を行います。

処理と効果:

糞尿1tonに対し“エンザイムリンネ液”2.4ton(リンネ40%濃度液)を投入し、“酵素活性化処理法”に依る悪臭除去処理を行います。

汚水を浄化する工程では、処理水(放流水)を希釈水に使用して循環させる方法も有ります。又、流入汚水量<消費水量の関係が成立した場合、無放流システムも実現出来ます。(但し:液温15℃以上が条件)

酵素活性化処理法に必要な設備:

原水槽・希釈槽・放流槽・分解槽の4槽の設置が必要です。

糞尿処理基材の作り方

《糞尿への処方基材》

加工： エンザイム パウダーをペースト状に加工した液状基材

用法： 糞尿原水1tonにリンネ液2.4ton（パウダー状基材40%）を投入して使用。（エンザイム リンネ投入は初回のみ、追加補充の必要は原則有りません）

従来の排水処理方式（活性汚泥方式）は、簡潔に申しますと、有機汚物を汚泥に変換し、余剰汚泥として外部へ搬出する仕組みと言い換えれます。

今回採用の新技术、“**酵素活性化処理法**”ではエンザイム リンネの働きにより、液中で殆ど全ての有機物を分解させる事が可能であり、結果として余剰汚泥の搬出が不要となる新しい汚水浄化技術です。

尚、分解エネルギーとして、液中の窒素やリンを利用する為、脱窒・脱リン効果も飛躍的に高まります。悪臭成分も分解されますので、臭気対策も大幅に軽減されます。

豚への処方基材（通称：米糠ボカシ）

〈配合比率〉：米糠100kgに対し、Gエンザイム15～20倍希釈液20L（Gエンザイム1L＋希釈液19L）を使用します。

〈攪拌混合〉：飼料攪拌機等により、30分程攪拌して下さい。米糠に希釈液を入れる際、一度に全部投入しない事。
2分から3分を掛け、少しずつ投入して下さい。

〈発酵させる場合〉・・・（嫌気性発酵）

樽詰めし、ビニール袋を被せ放置します。（20℃の室内環境が望ましい）

此の時、空気と接触しない様、詰め方を山盛りにし、隅を米糠等で補足し浅く押し込んで上にビニールを敷き、其の上を砂で密封する等の処置をとって下さい。

此の状態の俵、10日間（夏期の気温が高い時期で有れば1週間）程で完成。途中何も手は加えません。

保存は空気と接触させない状態で保ち、出来るだけ早めに使用して下さい。

豚舎への処方基材（通称：エンザイム）

糞尿の二次処理が一切無くなるオガ式豚舎の提案



〈配合比率〉：おがくず100に対しエンザイム10%を混入させた基材を作り、此れを床に30cm厚さに敷き詰めて使用します。

（条件：コンクリート床面の豚舎で10～20頭を一つの枳で飼育の場合）

〈使用状況〉：出荷迄に至る期間約180日（110kg体重）の間、全く糞尿の処理は必要有りません。此の間、臭いが消え、ハエの発生も無く成ります。

〈使用状況〉：出荷後の基材は全て掻き出して混練り機に掛け、細かく粉碎し再度豚舎に敷き詰めて利用する事が出来ます。

（此の時は再度少量のエンザイムを追加投入する必要が有ります）